

血管拡張薬は末梢血管系の拡張により前・後負荷を軽減させ心機能を改善させる目的で使用される。

今回、演者等は本症例を合併した胃癌患者の胃亜全摘出術の際に末梢血管抵抗の軽減と心機能の改善を目的に血管拡張薬として PGE₁ を使用し、ほぼ良好な経過を得られたので報告する。

5) 心疾患患者の非心臓手術の PGE₁ の使用経験

渡辺 重行・山岸真由美 (新潟市民病院)
遠藤 裕・丸山 正則 (麻酔科)

心疾患患者の非心臓手術において PGE₁ を使用した。術中は PGE₁ は 0.025~0.2μg/kg/hr の濃度で使用した。

心電図上 ST-T 成分に虚血性変化を見ることはなく、著明な頻脈や尿量の減少もなく低血圧を維持できた。

PGE₁ は末梢血管拡張作用だけでなく冠血流や心拍出量も維持することが報告されている。また血圧の下降はマイルドであり心疾患患者に置いても安全に使用できると考えられた。

6) 心臓麻酔時の PGE₁ による血管拡張療法の効果

熊谷 雄一 (新潟大学
麻酔学教室)

主に抵抗血管のみを拡張させるような PGE₁ による血管拡張療法は、逆流性の弁疾患や虚血性心疾患では後負荷を減弱させ、心拍出量を増加させる。そこで PGE₁ による血管拡張療法を虚血性心疾患患者または逆流性弁疾患患者の麻酔中に行い、その効果を検索した。心拍出量は量依存的に増加を示し、体血管抵抗は減少した。しかし、心拍数は、有意な変化を示さなかった。肺血管抵抗は減少したが、体血管抵抗の減少ほど大きくはなかった。PGE₁ は動脈拡張作用を有する一方で主要臓器の血流は維持すると言われ、特に心不全時の臓器血流維持にとっては有用と考えられた。また、静脈系の拡張薬では前負荷を減少し、心拍の増加を招きやすいが、この点で PGE₁ は前負荷を減少させることなく、心拍数を変えないため心筋虚血の患者での使用は有効と考えられる。

特別講演 脳死の臨床

金沢大学麻酔学教室教授

村上 誠 一 先生
